

第19回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月2日（木） 16：00 - 17：15

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、青木委員、下村委員、松尾委員、松本委員、薬師寺委員、渡邊委員

(2) 政府側

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、松井宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松宇宙開発戦略推進事務局参事官、高見宇宙開発戦略推進事務局参事官

4. 議事要旨

(1) 国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動について

資料1に基づき文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。()：質問・意見等 ()：回答)

「日米オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラム(JP-US OP3)」の概要に、「日本の非機能物体捕捉技術実証の支援」とあるが、非機能物体捕捉技術実証の具体的な計画はあるのか。

このとり(HTV)6号機の打ち上げ機会を活用した技術実証が出来ないか検討している。

フィリピンは宇宙条約を批准していないが、フィリピンの超小型衛星「DIWATA-1」の打ち上げについて賠償責任はどこにあるのか。

「DIWATA-1」を搭載する輸送機の打ち上げ国である米国が賠償責任を負っている。

昨年12月の日米政府間合意の最大の特徴は、ISSの再定義にあり、政治的、戦略的、外交的重要性を認識したことであるが、今回の資料ではその点が見えない。今後の資料では、その対応が見えるようにするべき。

「宇宙ステーション補給機(HTV)やHTV-Xの運用機会の活用」は従来のISS協力にはなかったものであるが、今後どのように進めていくのか。

HTV-Xは現在設計を進めているが、ISSからの帰路で様々な実験機会や将来の技術実証の場を作ることを検討しており、その点NASAから注目されている。

(2) 国際有人宇宙探査について

資料2に基づき文部科学省から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。()：質問・意見等 ()：回答)

国際宇宙探査フォーラム(ISEF)は、国際宇宙探査に係る枠組みやルールについて議論をする場であり、具体的なプログラムについては議論はされないという理解でよいか。

国際宇宙探査協働グループ(ISECG)や各国の取組の紹介はあると思うが、ISEF

は米欧中露等のような宇宙主要国以外の様々な国も参加しており、個別の具体的なプログラムについて合意をしたりするのは難しいのではないか。

長い期間と費用をかけて ISEF2 に向けた準備をするのであれば、我が国として何を
得るのかを明確にして望むべき。

以 上